

# リアルな体験とコミュニケーションが引き出す、高いモチベーション

## 國學院大學

Kokugakuin University

### 就活のモチベーションが上がる 心躍る仕掛けとは

「優良企業と学生との接点を多く用意し、やる気になった学生には最高のパフォーマンスが発揮できる場を惜しみなく提供していく。それが、本学のキャリアサポートです」。

國學院大學学生事務部長・藤形正俊氏はそう意気込みを見せる。リクルート出身の藤形氏は同社事業部長等を歴任したのち、大学に転身。主にキャリアサポートの分野でモチベーション・マネジメントの専門的な知見を活かした活動を行っている。

就職支援の現場で藤形氏が多くの学生と向き合い見えてきた、若者の姿があるという。それは日本のバブル崩壊後に生まれた彼らが向ける「働くこと」へのネガティブな視線だ。

藤形氏は次のように説く。「働く現場に行けば、とてつもないバイタリテイや使命感を持って仕事に取り組みモチベーションの塊のような職業人に出会えます。しかし、体感する機会がない学生には、そんな人がいるとは想像すらできません。この後ろ向き姿勢を変えるためのリアルな情報や体験にふれる場が、キャリアサポートには欠かせないのです」

### 視野を広げ、気付きを得る 『業界セミナー』の熱気

國學院大學のキャリアサポートでは「リアル」をキーワードに、就職活動に向かう学生のマインドをポジティブに変えるための仕掛けを数多く用意している。その好例が、3年生の就職活動が本格始動する秋に

開催の『業界セミナー』だ。各業界のトップ企業を学内に招き、2カ月間ほぼ毎日開催している。2018年度は約100社が登場し、延べ6000人の学生が参加。会場は連日、学生たちの熱気に包まれた。例えばBtoB業界には事業規模が大きく、世界的な優良企業が数多くあるものの、就活を始めたばかりの学生には馴染みが薄い。そこで同セミナーでは、BtoBの現場を熟知する企業担当者から臨場感溢れる話やビジネスの醍醐味をたっぷり語り尽くしてもらった。こうして日本企業の面白さ、奥深さを知り、多様な業界の最新動向、仕組みにふれることは、学生がそれまで気付かなかった業界や企業に出合うチャンスとなるのだ。

さらに特筆すべきは、これを企画・運営し「情報を足で稼ぐ」キャリア



(左上)キャリアサポート課には、毎年秋になると「内定者アドバイザー」が日替わりで常駐。人気の高いエアラインやマスコミ、金融業界などから内定を得た4年生約30名が、3年生にアドバイス等を行っている。(右上)数多くの就職支援プログラムがあり、「エアライン講座」も好評だ。2019年3月卒業予定者では、日系の大手航空会社2社の客室乗務員職をはじめ、エアライン業界で14名の4年生が内定を得ている(2019年2月現在)。(左下)渋谷・表参道・恵比寿の3駅からのアクセスが可能な「渋谷キャンパス」は、就職活動の際もアドバンテージとなる魅力的な立地だ。



保護者や学生が大学に寄せる「就職への期待」がより高まりをみせる今、独自のキャリアサポート体制で存在感を増すのが國學院大學である。その戦略と狙いについて、同学学生事務部長の藤形正俊氏に話を伺った。

取材・文／酒井 摂

## 「働くこと」の楽しさをリアルに見せれば、学生は変わる



國學院大學  
学生事務部長  
藤形 正俊 氏

就職活動と聞くと、多くの学生は最初からネガティブに捉えがちです。しかし考え方を少し変えれば、就活は「義務」ではなく「権利」。だからこそ、やらされてやるのではなく、存分にこの権利を使ってもらいたいのです。就職を、学生がさらに成長するための重要な機会として位置付ける國學院大學では、就活に向かう姿勢をまずポジティブに変えるところからキャリアサポートが始まります。本学がめざす人物像に「主体的大人」の育成があります。それは自ら考え、行動し、チャンスを切り拓くことのできる人のこと。まさに就活は、この主体的大人としての力が試される場なのです。2018年には、「国家公務員総合職」「公認会計士」という2つの難関試験突破をめざして、入学直後からスタートダッシュを切るキャリアプログラム「K-PLAS(ケー・プラス)」が始動しました。各ステップで明確な目標設定をすることで、1年次から4年次まで学生たちのモチベーションを維持しながら高め、選考を通過した学生には奨学金制度もあるキャリアプログラムです。初年度となる第1期生も、幅広い学部で学生たちが受講しています。リアルな体感の場や、マインドにスイッチが入る機会を私たち職員が数多くアレンジすることで、学生が挑戦せずにはいられないムードを学内全体に浸透させていく。それが、國學院大學のキャリアサポートなのです。

## Information

## 國學院大學



1882(明治15)年創立。神道の研究・教育機関「皇典講究所」を母体とし、日本人が拠って立つ基礎を研究・確立することを目的に開学した。大学令により1920(大正9)年に大学に昇格。私立大学として最初に認可された8大学のひとつである。現在は、文学部・神道文化学部・法学部・経済学部・人間開発学部の5学部を擁し、渋谷キャンパスのほか、人間開発学部の拠点となる横浜たまプラーザキャンパスがある。

## ●DATA

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28  
TEL 03-5466-0141 (入学課)  
URL <https://www.kokugakuin.ac.jp/admission>

## 内定者のコメント(2019年3月卒業予定者)

## 民間企業



### 日本IBM内定※

山口 由里香さん  
経済学部 経営学科 4年  
(東京農業大学第一高等学校卒業)

私は3年次から積極的にインターンシップに参加しました。自身の経験値を少しでも上げるためにも、さまざまな業界・職種をリアリティを持って知る上でも、インターンシップはとて有意義な体験になったと捉えています。

## 民間企業



### アサヒビール内定※

渡邊 修悟さん  
経済学部 経営学科 4年  
(國學院大學久我山高等学校卒業)

就職活動に向けて動き出した3年次の秋、学内の「業界セミナー」には毎回参加していました。最初はほんの興味本位で参加していたのが、本当におもしろい内容ばかりで、いつも前のめりながら聞いていました。

※内定はいずれも2019年2月現在

サポート課の活躍であらう。同課では総勢10名の職員が自ら「社一社訪問して調べた情報を基に、独自基準で絞った優良企業230社を紹介するデータブックを毎年発行している。前出の『業界セミナー』の招待企業も、職員自身が訪問から始めて業界・企業研究を重ねたからこそ学生に自信を持つてすすめる企業にほかならない。同課の佐野祐人氏は「職員が企業を訪問し、担当者と直接話した実績を伝えるだけでも学生ののめり込み方が違う」と明かす。「企業の採用戦略は毎年異なりま

各社を訪ね、生の情報を掴んでくる。その上で、学生には私たちの言葉で的確なアドバイスをができる体制を構築しています(佐野氏)。そのほかに現場を体感する見学会やインターンシップ等を学生が欲しているタイミングで次々と投入し、「働くこと」をよりリアルな体験やコミュニケーションとして落とし込んでいく。こうした結果、國學院大學では学生の就活における活動量を二層高めることに、成功しているのである。

大学では多くの学生が、成長の機会として就活を活かし、希望する企業への内定を果たしている。そしてキャリアサポート課では、各業界の優良企業から内定を得た4年生が「内定者アドバイザー」を務め、机上の「べき論」だけでは響かない学生目線のアドバイスやナレッジの共有を行う。「就活を楽しんで終えた」とも言える彼ら4年生は、次に就活を始める後輩が手本にするロールモデルとなるのだ。働くことは、楽しい。そんなシンプルなメッセージを体現する人々のリアルな姿や言葉を、学生に見せ、体感させていく。こうしてモチベーションが連鎖する流れが今、國學院大學で確かにできつつある。